

## 【活動報告】

# 令和4年度東京都公文書館企画展 「東京の鉄道と地域～鉄道開業150年記念」

東京都公文書館 史料編さん担当  
馬場 宏恵

### はじめに

明治5年9月12日（1872年10月14日）、我が国初の鉄道が新橋―横浜間に開業した。令和4年（2022）は150年の節目の年に当たった。これを記念して、当館では令和4年7月25日から同年9月20日まで、企画展「東京の鉄道と地域～鉄道開業150年記念」を開催した。東京における鉄道の発展過程をたどりながら、東京の各地域にも視点を当てる展示である。会期中に全国各地から多くの方に来館いただいた。

本報告は、企画展の構成及び内容の概要、この企画展による新たな試み及びアンケート結果をまとめ、展示の総括としたい。

### 1 展示構成及び内容

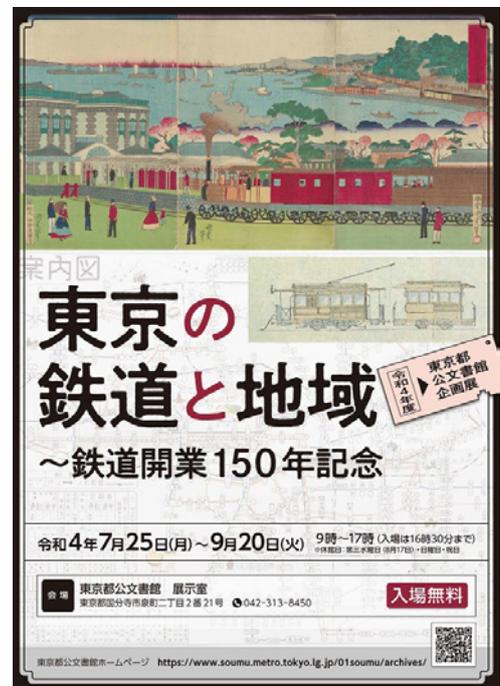
構成は次のとおり5章立てで行った。

- I 鉄道開業～新橋・横浜間鉄道
- II 馬車鉄道から市街鉄道へ
- III 多摩地域の鉄道
- IV 都市の発展と鉄道
- V 市電から都電へ～さくらトラムの源流を探る

各コーナーを構成する主な資料は、東京府、東京市及び東京都がその行政活動を展開するために作成し、系統的に整理・保存を行ってきた当館所蔵の公文書等である。当館では、鉄道敷設用地の確保から、私鉄各社の路線許認可に関わる記録、それらに添付されたさまざまな図面など、実に多様な公文書等を保存している。

東京の鉄道のあゆみと、それがもたらした地域の変容をたどりつつ歴史を再現する上で、欠かすことができないアーカイブズの力、博物館や図書館とは一味違う、公文書館の所蔵資料の特色を感じていただけたのではないだろうか。

以下、各コーナーの概要を記していきたい。



ポスター

## I 鉄道開業～新橋・横浜間鉄道

明治5年（1872）9月12日、明治天皇臨席のもと、我が国初の鉄道、新橋―横浜間鉄道の開業式が開催された。しかし、ここに至る道は平坦なものではなかった。高輪から芝浦付近では海岸沿いに堤を築いてその上に線路を敷設することになった。

この地域には江戸時代以来、海に面した立地を活かした生業を営む人々が暮らしていた。鉄道敷設のため立ち退きを余儀なくされる人々、高輪沖埋め立てに伴い海浜へのアクセスを遮断される人々への対処と補償など、次々に生起する困難に立ち向かいながら鉄道事業は進められた。

日本初の時刻表＝運賃表の内容もわかりやすく展示した。当館の動物キャラクターを登場させ、例えば品川―横浜間は「犬一匹につき25銭。ただし同乗は不可」等とスポットを当てた展示には、興味を持たれた観覧者も多かった。文書中心の当館の展示にアクセントを付ける工夫が奏功した事例と捉えたい。



品川―横浜間 時刻表・運賃表の説明

## II 馬車鉄道から市街鉄道へ

明治15年（1882）6月25日には、道路にレールを敷いてレール上の客車を馬により牽引する「馬車鉄道」の営業が、新橋―日本橋間で開始された。新橋に本社を置き、銀座・日本橋・上野・浅草という目抜き通りを循環する馬車鉄道は、文明開化を象徴するものとして多くの錦絵に描かれた。

電気を動力とする鉄道の営業許可が決定されるまでには長い時を要し、初めての認可は明治33年（1900）になった。東京電車鉄道・東京市街鉄道・東京電気鉄道の3社がそろって営業を開始した明治37年以降、東京における市街鉄道の時代が本格的に到来した。この3社も明治39年には合併し東京鉄道となった後、東京市に買収されて東京市電気局（現東京都交通局）の経営する「市電」となった。



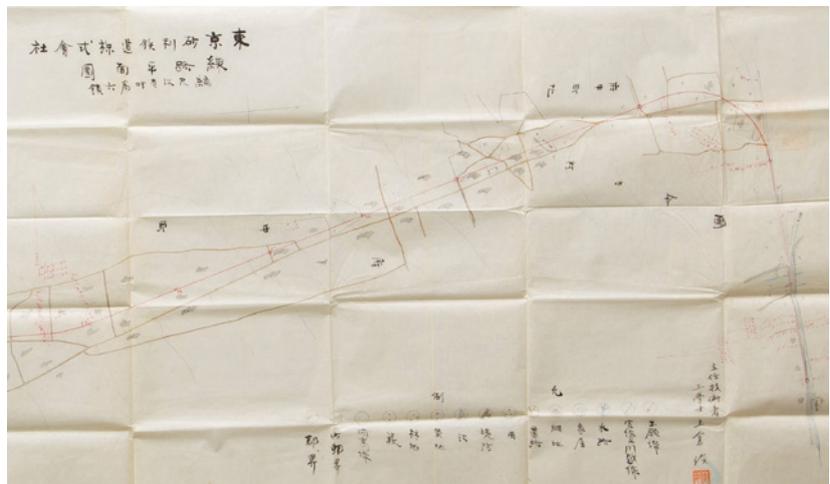
東京馬車鉄道 全線路平面図

### Ⅲ 多摩地域の鉄道

現在多摩地域の旅客輸送の大動脈となっているJR中央線を始め、JR青梅線・同五日市線・同南武線・同横浜線、京王線、西武線等は、いずれも初期においては建築資材である石灰石や多摩川の砂利、主要貿易品であった生糸等を運ぶ目的で計画された民営鉄道だった。

最も早く開通したのは、明治22年（1889）に八王子―新宿間を結んで開業した甲武鉄道（現JR中央線）だった。当館の現在地付近では、明治43年に東京砂利鉄道（国分寺―下河原間、廃線）が開業した。

大正・昭和期には、貨物輸送に加えて、住宅地開発に伴う鉄道敷設や、「観光」客をターゲットとした、旅客輸送



東京砂利鉄道線路平面図（部分）

目的の鉄道も登場する。これらの鉄道は、鉄道国有法（明治39年公布）や、戦時期の陸上交通事業調整法等により、国有化や合併が進められた。

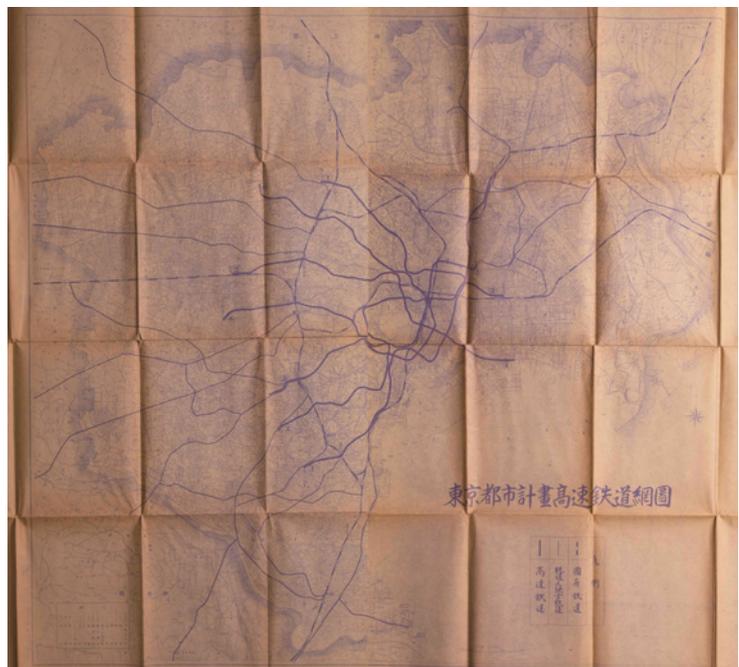
今回、出願時に添付された多摩地域の路線平面図を多数展示した。

### Ⅳ 都市の発展と鉄道

20世紀初頭から半ばにかけ、産業の発達に伴い東京の人口は増え続けた。とりわけ増加が顕著であったのが都市近郊の農村地域である。鉄道沿線を中心に各所で住宅地の開発が進み、市街地が郊外に向けて拡大する。

郊外の発展は都心に向かう交通需要を高め、多くの人たちが通勤や通学のため日常的に鉄道を利用するようになった。都心と郊外を結ぶ鉄道路線の数も増え、新宿をはじめ都心のターミナル駅を多くの利用客が行き交う。

一方、都市内部の交通網にも大きな変化が生じる。この当時、東京市内の主な交通手段は路面電車だが、利用客の増加に対応できず混雑していた。そうした中、新たに建設が始まったのが地下鉄だった。地下鉄は戦争の時代を経て路線数を次第に増やし、東京の主要な交通機関へと発展を遂げる。



東京都市計画高速鉄道網図（地下鉄に関する都市計画図）

ここでは鉄道各社のパンフレット、住宅地パンフレット、事業開始・申請等書類を展示した。

## V 市電から都電へ～さくらトラムの源流を探って

かつて、東京市街地には路面電車が最大41系統も走り、文字通り市民の足として活躍した。現在は唯一、東京さくらトラム（都電荒川線）が三ノ輪橋—早稲田間12.2kmを走り、住民の交通手段として、また観光資源として機能している。東京さくらトラムという愛称で親しまれている都電荒川線の源流をたどり、明治44年（1911）の市電の誕生から、その後の普及拡大、震災や戦災による被害を乗り越えての復興、交通事情の変化による撤去といった変遷を追った。

このコーナーでは、当館所蔵資料の中から東京鉄道買収及び東京市電気局が発足する市会議事を展示した。このほか、東京都交通局の協力を得て、写真資料や実物資料を展示することができた。大正時代から昭和にかけての切符や電車案内図、都電の広告宣伝付き系統板に加え、実際に荒川電車営業所で使われていた乗務員用靴及びパンチ、菅沼式の日付印字器（ダッチングマシン）及び木製の切符発売箱など、懐かしい品々を展示することができた。



絵葉書「東京市電車」（東京都交通局所蔵）



右から切符発売箱、都電乗務員用靴、  
左上：日付印字器、左下：パンチ（東京都交通局所蔵）

## 2 新たな試み～普及事業としての充実をめざして

### (1) 対面式の関連講演会開催と動画の後日配信

関連講演会は次のとおり開催した。

開催日	令和4年9月2日（金）
講演会名	企画展「東京の鉄道と地域～鉄道開業150年記念」関連講演会
講演内容	「公文書から見た新橋・横浜間鉄道の開業事情」 講師：西木 浩一（東京都公文書館） 「考古学から見た開業期の鉄道について」 講師：斉藤 進 氏（港区埋蔵文化財調査指導員）

当館主催の対面式の講演会は初めての試みであった。国分寺移転前の当館には講座を開催する施設がなく、他施設へ出張しての講座を行うのみであった。また令和2年4月開館以降、新型コロナウイルス感染症流行の影響を受けてきたため、今年の講演会及び

講座はオンライン開催であった。

受講申し込みは、昨年に引き続きWEBフォームを利用した。今回、社会人の参加を見込み、受付開始時間は平日を避けて土曜日10時開始とした。コロナ禍であるため募集定員を会場定員の約半分40名とし、会場は密にならないように座席と空間の余裕を確保した。

実際に会場に足を運んで館施設をご覧いただく、さらに前後の時間に閲覧室の利用及び展示室の観覧をしていただくのは、利用促進のための普及事業としては直接的な効果が高いといえる。

その一方、人数には一定の制限をせざるをえなかったため、講演会を映像収録し編集して、後日動画配信を行った（動画配信期間：令和4年11月7日から12月6日まで）。動画配信も申込制とし、WEBフォームの自動送信機能を利用してURLを送付した。講演会は2時間半にわたるため、動画は前編と後編に分けて配信をした。

## (2) 企画展紹介動画の配信

企画展紹介動画を作成し、会期半ばの8月25日から公開を開始した。約13分の動画にはナレーションを入れ、YouTubeの字幕自動生成機能を利用し、誤翻訳を修正して日本語字幕を作成した。

制作のねらいは3つあった。第1に、動画をダイジェストで視聴された上で、原資料を見たいと企画展に足を運んでいただくこと。宣伝媒体としての活用である。

第2に、展示を見逃した方、また遠方で来館は難しいという方にも視聴していただく、さらに展示終了後にもアクセスしていただくこと。企画展の内容をより幅広く、末永くご覧いただくための試みとなる。

第3に、字幕+ナレーション入りの動画で視覚的にも聴覚的にも展示の内容をわかりやすく伝えることを可能とすること。当館では、今展示のキャプションにユニバーサルデザインのフォントを採用するなどの取り組みを行ったが、一歩進んで、障害のある方にも利用可能な施設でありたいと考えている。今回の動画制作をきっかけとして、今後公文書館にできることを模索していきたい。

## (3) 子ども向けイベントの開催

8月1日から会期最終日まで、子ども向けイベント「たぬきさんは何匹いる？」を開催した。当館動物キャラクターのたぬきさんやねこさんを忍ばせた錦絵を大きく印刷して壁面に掲示し、キャラクターを探して何匹いたか当てるというクイズを来館者に楽しんでいただいた。親子連れの方や子ども心を忘れていない大人の方100名を超える



たぬきさんは何匹いる？  
「東京高輪鉄道蒸気車走行之全図」（請求馬号：い32）の  
錦絵画像の中に5匹のたぬきさんを忍ばせた。

参加があった。正解者には手作り絵葉書（ぬりえ）等を贈呈した。公文書館という施設に立ち寄りやすいイメージを持たれている方が少なくない中、まず一度入ってみよう

というきっかけづくりをねらったイベントであり、一定の成果を収めることができた。

### 3 資料保存上の配慮

鉄道関係の資料には青焼き図面が添付されていることが多い。青焼き図面は光に弱いため、複製を作成して展示した。公文書を綴った簿冊等、開いて展示したい資料も、そのページを開くことにより資料に負荷がかかる場合には、複製展示に切り替えた。

展示ケース内は温湿度測定及び空気環境測定を行いつつ展示を開催した。国指定重要文化財は、平成30年1月29日改訂「国宝・重要文化財の公開に関する取扱要項」（文化庁裁定）により、年間の展示公開日数は延べ60日以内と定められている。将来に亘り、都民の財産として資料を保存活用していくため、当館展示においてもこれを遵守している。

### 4 アンケート結果

今回200名の方から回答をいただいた。ご観覧いただいた方の居住地は、都内:67%（内、多摩地域:38%、23区内:29%）、都外:33%と、当館が国分寺市に所在しているため多摩地域からの観覧者が多くなっている。都外からは北は岩手県から南は熊本県まで、遠方からもご来館いただいた。展示を知った情報源は、当館ホームページ及びSNSを上げた方が多く、また鉄道雑誌等のウェブサイト及びSNSに当館展示情報が掲載されたため、全国各地からご来館いただいたことがわかった。年齢では、今回は12歳以下:1%、13歳以上19歳以下:2%、20代:14%、30代:11%、40代:21%、50代:23%、60代:16%、70代以上:12%であった。当館の展示は、これまで60歳以上の割合が高かったが、30代以下合計28%と若い世代の観覧者を得ることができた。当館の認知度・利用度については、当館を知っていた:34%、当館を利用した事がある:13%、今回の企画展で初めて知った:53%と、今回の展示では高い普及効果を上げることができた。

企画展の満足度は、大変よかった:67%、よかった:29%、ふつう:2%、もう少し:1%、無回答:1%で、「大変よかった」「よかった」の合計は96%と、おおむね好評であった。

自由意見欄では、271件と多くの方からご意見及びご感想をいただいた。いくつか、ご感想の概要を列挙させていただきたい。

「各地の博物館等で鉄道150年企画が開かれているが、公文書の原本を拝見でき、大変良かった。」「公文書の力に圧倒された。これほど多くの公文書（鉄道に限ったもの）をまとめて見ることはなかなかできない。ぜひ今後も資料収集、公開を進めていただきたい。」「多摩地域の鉄道の成り立ちが良くわかり大変おもしろかった。」「鉄道に関する写真や絵図はよく見てきたが、許可申請などの文書がこれだけ残っているとは思わなかった。京王御陵線計画にあれだけの検討経過があったと知り、驚いている。」「小さなスペースながら、見応えのある展示内容だった。貴重な文献も、部分写真ではなく、現物の厚み、質感共に見ることができたことがとても良かった。」「読みごたえがあった。公文書館アーカイブを知らなかったので活用したい。」「工事の申請したときの書類や設計図など、初めて見るものが多く興味深い。」「これまで鉄道開業に関する様々な企画展を見てきたが新橋～品川間の築堤ルートに至った経緯が軍部の反対によって測量できなかった為に、やむを得ず作られた物だったとは知らなかったので大変勉強になった。多摩地区の鉄道の生い立ちや都電の生い立ちを知る事ができて良かった。」「日常的に乗っている鉄道の歴史がわかりやすくまとめられていて、とても面

白かった。私鉄の資料も一度に集められているのが良かった。」「貴重な文書の実物を見ることができると、文字のひとつひとつから当時の人々の情熱が伝わってくるようだ。限られたスペースに色々な鉄道会社の資料がぎゅっとまとめられていて内容の濃い展示だった。撮影OKの資料があったのもありがたい。」「高輪築堤に関する話と、車両の席次表が印象的。他館の展示も見に行ったが、その時に展示されていた車両の席次表とはまた書式がちがって面白かった。」「申請書のぶあつさに驚き。計画段階で未完の路線に関する史料展示は、東京の鉄道に興味ある者には関心が高い。」

また、無料配布の図録が好評だった。有料でもいいから展示している全資料を掲載した本格的な図録や通信販売を望む声もあった。さらに展示のコーナー毎にもっと掘り下げた内容を希望する方もいらっしやった。多摩地域の鉄道をもっと深く知りたいと複数ご意見をいただいた。壁面の展示ケース内の絵図面は文字が見えにくいことのご意見もいただいた。今後の展示方法改善の参考とさせていただきたい。

関連講演会及び関連講演会動画公開でも、アンケートを実施し回答をいただいた。講演会参加者のうち90%の方から回答をいただいた。年齢は、20代：3%、40代：3%、50代：28%、60代：38%、70代以上：28%であった。企画展の観覧については、観覧済：66%、今後観覧予定：31%、その他3%であった。講演会を知った情報源は、当館ホームページが46%と約半数を占めた。講演会の評価は、大変良かった76%、良かった17%、無回答7%であり、「大変良かった」「良かった」の合計が93%と概ね好評であった。自由意見欄のご意見ご感想も41件いただいた。講演会動画公開のアンケートもおおむね好評であった。

## おわりに

今回の展示では、展示資料リストを会期中に配布できなかったが、現在当館ホームページ内「過去の展示・講演会等」にて公開している<sup>1</sup>。併せて参照いただきたい。

なお、当館所蔵資料については閲覧室で利用することができる。是非、これをきっかけに当館所蔵資料を活用していただければ幸いである。

また、展示開催にあたり、以下の機関等から資料提供等のご協力をいただいた。この場をお借りして御礼申し上げたい。

協力機関・個人（敬称略、50音順、関連講演会使用資料を含む）

川崎市市民ミュージアム	東京都教育委員会
公益財団法人鍋島報効会	東京都交通局
国土地理院	日本大学芸術学部
国立公文書館	港区立郷土歴史館
国立国会図書館	横浜開港資料館
佐賀県立佐賀城本丸歴史館	斉藤 進
鉄道博物館	白石 弘之
東京都江戸東京博物館	

<sup>1</sup> 東京の鉄道と地域～鉄道開業150年記念 展示資料一覧（PDF：981KB） URL及びQRコード（令和5年3月現在）  
[https://www.soumu.metro.tokyo.lg.jp/01soumu/archives/0403tenji\\_R4tetudou\\_list.pdf](https://www.soumu.metro.tokyo.lg.jp/01soumu/archives/0403tenji_R4tetudou_list.pdf)

